

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2870800899 | | |
| 法人名 | 力開発株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム舞子 | | |
| 所在地 | 神戸市垂水区舞子坂3丁目14番21号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年 5月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年7月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 ライフ・デザイン研究所 |
| 所在地 | 兵庫県神戸市長田区菘乃町2-2-14 |
| 訪問調査日 | 平成26年5月12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさに重きを置き、その人のニーズに添った支援をしている。 ・医療機関との連携を密にし、入居者の状態の変化に速やかにかつ適切に対応している。 ・介護技術の向上のため、職員が各種研修に参加や、資格取得を行ない、自己研鑽している。 |
|---|

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**本人本位を尊重した事業所運営**・「入居者の心に寄り添い、健康面でサポートし、平穏で楽しく、時には適度な刺激のある生活(非日常の演出)」が送れるよう職員総員がその達成に取組んでいる。その方が望む生活を尊重する介護計画の作成。②**生活を豊かに**・「食」の楽しみを大切にしている。リクエストメニューを月のうち半分程度取り入れ、食器にも気を配っている。入居者それぞれにとって「好きなこと、得意なこと」が継続でき、充実した日々となるよう個別に支援している(詩吟、編み物、野球観戦、カラオケ喫茶、書道、紙切り等)。③**医療面での安心感**・事業所には看護師が配置されており、心身状態の変化等へも迅速に対応できる体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 | 者三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の中でその人らしく安心して暮らせるように「安心生活・健康サポート・生きがいのある毎日」の理念を、フロアミーティングの場で具体的に例を挙げ、日々の介護に実践できるよう全員で共有している。 | 「安心生活 健康サポート 生きがいある生活」を事業所の理念とし、入居者への『心への寄り添い』『健康管理』『平穏に楽しく、時に適度な刺激』を実現すべく、全職員が取組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 2カ月ごとの運営推進会議で意見や案・情報をいただき、近隣の小学校の音楽会には毎年参加している。近くの牛乳店にはほぼ毎日牛乳を購入するため通い、馴染みの関係を築いている。 | 馴染みの牛乳店での買い物(ほぼ毎日)、民生委員の協力による近隣小・中学校との交流(「昔遊び」「文化祭」等)、地域のボランティアによる様々なレクリエーション、近隣のお店を貸し切ったカラオケ大会等地域との係わりの中での生活が常態化している。 | 地域の社会資源として、今後も、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域に向けた活動は現在行えていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 構成員である他の施設の代表の方より体験に沿った意見を頂き、日々のサービス向上に活かしている。例えば、転倒を繰り返す入居者に対し、立ち上がるたびに制止していた職員が、助言のとおり声掛けを変えることにより、ゆとりを持った介護ができるようになった。 | 会議では、事業所からの一方通行的な情報発信にとどまらず、衛生面、安全面、楽しみ事等色々なテーマで出席者が意見等を出し合い、検討・決定し運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議において地域包括のケアマネジャーの出席を頂き、日常の些細な事案を報告し、アドバイスをいただいている。 | 区のGH連絡協議会(市の担当者の参加もあり)に出席し、情報の共有、課題の相談・検討等、独りよがりの運営にならないように努めている。地域包括支援センターとも運営推進会議等で連携を深めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 社内研修会においてあんしんすこやかセンターセンター長の指導により、身体拘束をしないケアの重要性を全員で受講し学んだ。 | 職員は、身体的拘束等の弊害を十分に理解し、入居者の「普通の暮らし」への支援を第一義にとらえ取組んでいる。また、認知症専門医による服薬指導も受け、不具合を軽減できるよう支援している。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 虐待についても社内研修会において全員が参加し学んだ。フロアミーティングの場で意見交換し、再徹底している。 | 高齢者虐待を「現象面」で捉えるのではなく、『人権』のレベルから検討し、ケアを実践している。また、職員へのメンタルヘルスサポートもフロアリーダーによりなされている。 | |

| 自己 | 者三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者・職員は必要に応じて、その時々に来れる限りの支援を行っているが、全職員対象にはDVD研修として個々に学習し、ミーティングの場で意見交換し理解を深めた。 | 現在制度を活用している方はおられない。制度の基本の理解は全職員がクリアしており、制度の活用が認知症高齢者への支援の一方策であることも共通認識できている。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前の見学時に本人を含め家族の希望、不安とするところを聞き取りしつつ説明している。改定の際は説明の上、疑問には回答し理解していただいている。 | ホーム見学、質疑応答を通じ、疑問・不安感がない状態で契約できるよう、特に「家族」との関係性にウェイトをおきすすめている。重度化・終末期への対応方針もこのタイミングで説明し理解いただいている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に家族代表が参加していただき、意見を伺っている。また面会に来られた時や家族会において、意見・要望を伺い、それを運営に生かしている。 | 運営推進会議、家族会、来訪時・電話等様々な機会を持ち、意見等を聴き取る仕組みを設けている。頂いた意見等は遅滞なくフィードバックし、改善が必要なものに関しては即実行している。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各フロアミーティングで出された意見や提案を、フロア長会議において管理者に報告している。またフロアミーティングに管理者が同席することもある。 | フロア会議、個人面談等を通じ職員からの意見を集約し、フロア長会議(毎週)において検討・精査し、改善へとすすめている。挙げた意見等へのフィードバックは必ず行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 運動ルームを充実し、職員に運動機器を自由に使えるよう整備されている。また夏冬には、事業所が費用をもち、職員の親睦ができるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内研修は全員参加できるようシフトにおいて配慮し、参加できなかった場合の予備日も設定している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 垂水区グループホーム連絡会が3ヶ月に一度開催されており、各ユニットのフロア長が参加し他のグループホームと意見交換したものを持ち帰り、サービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----------------------------|--|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居申し込み前には見学していただき、入居決定するまでには本人との面談を行い直接聞ける機会を設けている。また入居当初には、思いなどを聞き出す環境づくりをしている。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学・面接の際には話せる機会を設けて、安心して相談できるようにしている。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人家族が、まず何を要望しているか、入居前に綿密に伺い、対応している。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | その人らしく生活できるようにできることはご自分でして頂けるように声かけしている。また、その人の生きがいにつながる役割づくりに配慮している。 | | |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 各フロア長及び当施設のご家族相談窓口の職員が、家族の思いを聞き取り、共に本人を支えている。 | | |
| 20 | (11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 年始には自宅に帰り、隣近所の人と触れ合えるよう、また施設に馴染みの人が訪問され、いつもより会話が弾んでいる。など環境づくりにおいて、支援している。 | 家族との外出(買い物、食事、墓参り等)や馴染みのスーパーへの買い物、以前の自宅(生活環境の場)周辺へのドライブ、友人・知人の来訪等今までの生活歴が継続できるよう支援している。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常的に食事の時間やレクレーションなど共に楽しみ、関わり合える環境作りに取り組んでいる。孤立している人はいないか見守り、把握し、入居者同士のコミュニケーションを職員間で情報を共有している。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|------------------------------------|---|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 22 | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も、家族からの要望あれば相談にのるよう努めている。例として、「元気だから娘と暮らす」と一旦退去したが、「やっぱりグループがいい」と本人の強い希望を家族より相談受け、半年後再び入居となった。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | (12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日ごろから入居者とのコミュニケーションの中で、「食べたいもの、出かけたこと、今は横になりたい、何かしたい」など様々な思いや希望を聞き取り、感じ取り、沿った支援を提供するように努めている。 | 日常生活の中での入居者とのコミュニケーションにより「したい事、出かけた所、食べたいもの等」を聞き、感じ取り、ご本人たちの思い・意向にそえるよう申し送り・介護記録・カンファレンスにより全職員が情報を共有している。 | |
| 24 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や健康状態に関しては、家族や来設された友人からの話などから様々な情報を聞き取り、「入居者情報」として把握している。 | | |
| 25 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 共同生活の中でもその人のペースを尊重し、その人らしく暮らせるように支援する。1日2回のバイタルチェックにて健康状態の把握に努めている。 | | |
| 26 | (13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のモニタリングを踏まえ、家族・専門医などと相談し、現状に合った介護計画を作成している。 | 入居者個々人の思い・意向や家族の要望、職員・看護師等の意見を踏まえ有用性の高い介護計画を作成している。入居者の現況と介護計画の整合性確認(モニタリング)は、関係者全員が担っている。 | 介護職員の観察力を高め、更なる本人本位の介護計画書の作成継続に期待をします。 |
| 27 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別カルテに詳細に状況や気づきを記載し、職員間で共有し、新たな問題や発見を介護計画に取り入れている。 | | |
| 28 | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 転倒などにより骨折に至り、病院からの退院後、ADL低下や機能低下を防ぐためその人に応じた生活リハビリを介護計画に取り入れ実践している。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----|------|----|---|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 29 | | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員に運営推進会議に出席いただき、地域の情報を得ている。地区の小学校で開催される音楽会やふれあい喫茶などの情報をいただき、参加している。 | | |
| 30 | (14) | | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 内科の主治医及び各専門医には各々定期的に往診を受けている。また必要時には家族と連絡取り、主治医に他の医療機関を紹介して頂き健康管理に努めている。 | 協力医(内科)による往診(月2回)、急変時への支援体制が整えられている。歯科、眼科の訪問も受けている。通院受診については、家族と情報を共有しながらすすめている。 | |
| 31 | | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師には日々の状況や変化を的確に伝えている。看護職と介護職が共同し、体調変化に早期対応している。 | | |
| 32 | (15) | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は病歴、その他情報を病院関係者に伝え、より良い治療につながるよう努めている。退院時にはよく聞き取り、今後の生活を相談している。 | 入院中は入居者の不安感を軽減するため職員が自主的に面会に向いている。病院とは早期退院を基本に連携をはかり、退院時には、予後に不具合が生じないよう情報を受けている。 | |
| 33 | (16) | | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の方針を入居時に説明し同意を頂くと共に、必要に応じてターミナル時の方針を家族や主治医と話し合い、またその情報を皆で共有しながら支援している。 | 入居者にとって「望ましい生活」に寄り添うケアとなるよう関係者間(本人・家族・医師等・事業所)が相談・検討しすすめている。介護職員も情報集約をもちあわせ取り組んでいる。 | |
| 34 | | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成している。のど詰りや誤嚥をはじめ、急変時の対応を適切に行えるようミーティングのたびに再確認している。 | | |
| 35 | (17) | | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害マニュアルを基本に、ADLの状態に合わせて迅速に対応できるよう、定期的に訓練を実施している。 | 年2回の消防・避難訓練(日中帯・夜間帯)を実施し(消防署の立会いあり)、入居者の現況に応じた移動方法等を見極めている。また、津波の被害は回避できる地域である。 | |

| 自己 | 者 第 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を守れるような声かけや認知度に応じた対応をしている。言語がなかなか出にくい人には静かに待ち、話せる環境やふれあいなどに努める。 | 入居者個々人の「自尊心・羞恥心」に配慮しながら、今まで培われ、身に付けてこられた技能や趣味、習慣等（英語、編み物、詩吟、野球観戦等）が維持・継続できるよう支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事の提供方法・飲みたいもの、またリクエストメニューの日を設け食べたいものを沿うようにしている。、どうしたい、どれを着る、と様々な場面で自己決定ができるよう声掛けし、実践している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 健康状態に配慮しながらも、その人らしい過ごし方ができるように本人の思いに沿うよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節や好みに合わせたその人らしいおしゃれができるよう着たいものを複数の中から選択されるよう支援している。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みを聞き取りメニュー作りをしている。また買物にも同行し、今日食べたいものを購入したり、レクを楽しむ感覚で節分の巻き寿司など巻く、食材の下準備などの手伝いなど、参加を楽しんでいただいている。 | 月の半分程度はリクエストメニューによる食事を提供している。食材購入、調理、盛付け、配膳・下膳等できる部分を職員と一緒に会話を楽しみながら取組んでいる。外食・イベント食・おやつ作りも好評である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分チェック・食事量チェックを行い個々の体調を考慮しつつ、また嚥下困難な方には応じた形態や提供方法を工夫し、必要量の確保を支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの口腔状態により、歯科医師の指示のもと、起床時・食後・入眠時には口腔ケアを介助、または自立で行える方には声かけにて促し、実施している。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失禁による不快を避けるためパットを装着している人も、排尿パターンをチェック表にて確認し、トイレで排泄できるよう支援している。 | 入居者個々人の現況及び排泄のパターンやそのサイン等を把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援している(2人介助もあり)。夜間帯は、ポータブルトイレ、パットを利用される方もおられる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 医師と連携し、整腸剤や緩下剤、漢方等で調整しているが、基本的には朝食にはヨーグルト、牛乳を取り入れ、その人に合わせた運動をすすめたりし、スムーズな排便がみられるよう支援している。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 体調や希望に合わせて、いつでも入浴したい時に入れるよう、また好まない人には、入浴しない日が続かないよう声かけし支援している。また身体状況に応じ、個別入浴・介助入浴をしている。 | 週2～3回を入浴の基本としている。ゆっくりゆったりとした入浴時間となるよう職員との会話を楽しんだり、歌を歌われる方もおられる。身体状況や本人のご希望によりシャワー浴で対応する場合もある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室を清潔に保ち、室温に配慮し良眠出来るよう環境を整えている。また体調により、日中でも臥床することが望ましい場合、休息を声掛けしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬の情報書を確認し、内容を共有している。また与薬時は見守りを確実にこなしている。副作用・用量については本人の状態を医師と細かく連携している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事を手伝いたい希望がある方には調理の下準備や洗濯物たたみなど参加していただいたり、将棋やカラオケを好む方や入居者同士で楽しめるよう環境づくりに配慮し、張り合いのある暮らしになるよう支援している。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 出かけるのを好む人には日常の買い物にスーパーに出かけている。長時間困難な人には近くの小売店へ毎日の牛乳を買いに出る店の人と歓談できる機会がもてている。また買いたい希望があればその専門店へ同行し、一人ひとりに合わせた外出支援を行っている。 | 日常的な散歩や買い物(牛乳店へは、ほぼ毎日)、庭園・ベランダの草花への水遣り等、外気に触れる機会を必ず設けている。少人数での外出レクリエーション(外食、カラオケ、ドライブ、姫路城見学等)は適度な刺激となっている。 | 個々の入居者の馴染みの場所やADL状態に応じた個別支援(外出)を今後も継続して頂くことに期待をします。 |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---------------|---|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の援助により手元におこずかいを持つ方には、好みのものを購入の際、自分で支払えるよう支援している。事務所預かりの方も希望のものが購入できるよう支援している。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望する方にはフロアの電話で家族の声が聞けるよう支援している。また携帯電話を持ち自由に家族や知り合いの声を聞いておられる、ご家族が海外在住の方には、月2回スカイプを利用し遠方でも顔を見てお話し頂いている | | |
| 52 | (23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を盛り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じて居心地良い設定温度を保っている。またその都度「寒い」「暑い」と声があれば重ね着を促したり設定温度を変更したりしている。月ごとに壁面を変更して季節感を取り入れている。 | リビングの広い窓からの適度な採光、庭園・ベランダの草花や季節の壁飾りから、四季の移ろいを感じることができる。空調も管理できており衛生面でも工夫されている。 | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自由に自室で自分のしたい事をしたり、また様々なレクレーションを実施し共に楽しんだり、また自分の椅子を移動したりソファに座りかえたりして気の合った人と歓談など、思い思いに過ごしていただいている。 | | |
| 54 | (24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していた馴染みのある物を自室に置き、落ち着ける場所とし、また安全に過ごせるよう環境整備にも注意を払っている。 | 使い慣れた馴染みのもの(筆筒、仏壇、家族写真等)を持ち込み居心地の良い居室となるよう支援している。また、入居者の現況(ADL等)に応じた居室の設えが実施されている。 | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | フロア内は安全に配慮し、バリアフリーにしている。安心して移動できるよう手すりを設置している。トイレなどにはポスターを貼り、どこにあるかわかるように工夫し、自分で「できること」「わかること」が活かせる生活づくりを環境の面から支援している。 | | |